

## 事業の背景・目的

アマクサミツバツツジは天草地方の限られた地域にしか生育していない、我が国の固有種である(図1)。観賞価値も高く地元にもよく知られている植物で、開花期はメディアにもしばしば取り上げられる。その一方、同所的に生育するオンツツジとの雑種移行が深刻となっており、純系を見つけることは困難となっている。本事業ではより多くの純系を見出し、挿し木により多くの純系のクローン苗を得ることを目的としている。



図1. アマクサミツバツツジ

## 事業の内容

### 事業① 生育コロニーの調査

熊本県上天草市内にて、4地点の純系生育コロニーを見出すことができた(図2)。多くの個体が周辺の樹木の被覆により日照不足に陥っており、開花の見られないもの、一部か枯れ込んでいるものが確認された。

### 事業② 純系の判別事業

事業①と同時並行して行った。純系を見分けるにあたり、葉の大きさ、果実の形状などに加え、1芽あたりの花数、花色などの予備調査の結果も参考にして判別した。

### 事業③ 挿し木増殖

11月に挿し木を行った。一年生の枝を3~10cmほどに揃え、オキシベロン液剤40倍に3時間浸漬したのち、人工気象器の内外で管理した。



図2. 純系コロニーの開花株

## 得られた成果

自生地調査において、本種はウラジロやコシダなどが広く優占する表層土壌の浅い乾いた岩場に見られた。このような環境は樹木の生育も悪く樹高が比較的強く抑えられていた。しかしながら、人間の生活環境の変化により薪炭用としての樹木が伐採されない状態が長く続いているため、周辺の樹木は着実に成長しているようであり、日照不足に陥っている個体も多く見られた。

純系は、周辺にオンツツジが生育していない環境に見られた。オンツツジの生育地の近くで純系と思われる個体があっても、形態を詳細に確認するとほとんどが雑種と思われる個体であった。1芽あたりの花数、花色、葉の大きさに加え、果実の形状も判断材料としたが、果実による純系の判別は困難であった。挿し木については合計41本が活着した。人工気象器内で管理しているものについて活着率が24.1%と高かったが、器外管理については12.6%と低かった。